佐久市埋蔵文化財調査報告書　第13集

KAMI TAKA YAMA

上高山遺跡 II

長野県佐久市長土呂芝宮遺跡群上高山遺跡II調査報告書

1992

佐久市教育委員会
佐久埋蔵文化財調査センター

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第13集

KAMI TAKA YAMA

上高山遺跡 II

長野県佐久市長土呂芝宮遺跡群上高山遺跡II調査報告書

1992

佐久市教育委員会
佐久埋蔵文化財調査センター

例　　言

1　本書は、神津鶴雄氏による貸し工場建設に伴う、芝宮遺跡群上高山遺跡II発掘調査報告書である。

2　調査委託者　　神津鶴雄

3　調査受託者　　佐久市教育委員会、佐久市埋蔵文化財調査センター

4　発掘調査対象地番および面積　　芝宮遺跡群上高山遺跡II（ＮＳＫII）

佐久市大字長土呂字上高山848-1

調査対象面積1,657㎡

5　調査期間　　試掘調査　平成３年７月24日

発掘調査　平成３年８月２日～平成３年８月９日

整理作業　平成３年12月２日～平成４年２月28日

6　事務所および調査団の構成

（事務局）　佐久市教育委員会埋蔵文化財課

教育長　大井季夫　　教育次長　奥原秀雄

開発公社事務局長　佐々木正泰　　課長兼所長　上原正秀

管理係　桜井牧子（係長）、関口美咲、山崎明、渡辺紀美子

埋蔵文化財係　草間芳行（係長）、高村博文、林幸彦、三石宗一、須藤隆司、小林真寿、羽毛田卓也、竹原学

（調査団）

団長　　黒岩忠男（佐久考古学会副会長）

副団長　　藤沢平治（佐久市文化財議委員、日本考古学協会員）

調査担当者　林幸彦　調査主任　佐々木宗昭

調査員　　遠藤しづか、江原富子、小田川栄、小田川時江、金森治代、神津つねよ、小林よしみ、小林幸子、堺　益子、清水六郎、角田　時、角田良夫、長岡喜代人、成沢冨子、並木ことみ、羽毛田香里、橋詰信子、花岡美津子、星野良子、宮川百合子、柳沢千賀子、和久井義雄、渡辺久美子

7　報告書掲載図面等の作成は、堺益子、橋詰信子、羽毛田香里が、編集・執筆は林が担当した。

8　本調査に関するすべての資料は、佐久市教育委員会で保管している。

本文目次

例　言
本文目次
挿図目次
第Ⅰ章　発掘調査の経緯
　第１節　発掘調査に至る動機 ……1
第Ⅱ章　遺跡の位置と周辺遺跡
　第１節　上高山遺跡Ⅱと周辺遺跡の分布 2
第Ⅲ章　発掘調査の概要
　第１節　基本層序 ……3
　第２節　調査された遺構 ……3
第Ⅳ章　調査の記録
　第１節　遺構と遺物 ……4
　第２節　遺構と遺物の実測図 ……7
第Ⅴ章　調査の成果……13
写真図版

挿図目次

第１図　上高山遺跡Ⅱ位置図 ……1
第２図　上高山遺跡Ⅱ周辺遺跡分布図 ……2
第３図　上高山遺跡Ⅱ基本層序模式図 ……3
第４図　Ｈ１号住居址実測図 ……7
第５図　Ｈ１号住居カマド址実測図 ……8
第６図　Ｈ１号住居址出土土器実測図 ……8
第７図　Ｈ１号住居址出土鉄器実測図 ……8
第８図　Ｈ１号住居址出土紡錘車実測図 ……9
第９図　Ｈ１号住居址出土石器実測図 ……9
第10図　Ｆ１号掘立柱建物址実測図 ……9
第11図　Ｆ１号掘立柱建物址出土石器実測図 9
第12図　Ｆ２号掘立柱建物址実測図……10
第13図　Ｆ３号掘立柱建物址実測図……10
第14図　Ｆ４号掘立柱建物址実測図……11
第15図　Ｆ５号掘立柱建物址実測図……12
第16図　Ｄ１号土坑実測図……13
第17図　Ｄ２号土坑実測図……13
第18図　Ｄ３号土坑出土石器実測図……13
第19図　表採遺物実測図……13
第20図　上高山遺跡Ⅱ全体図……14

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

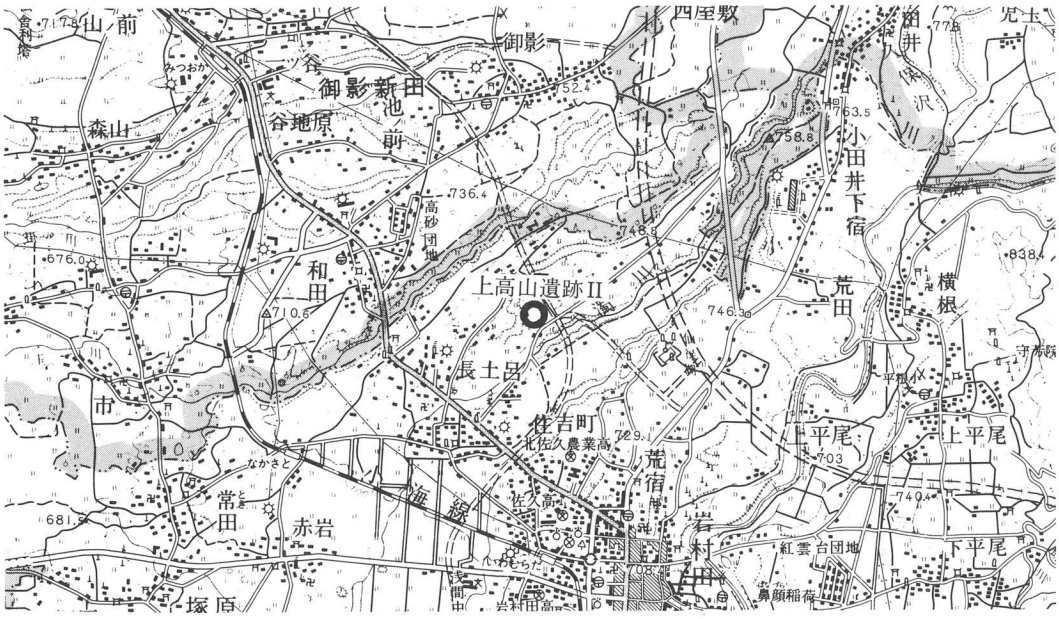
第１節　発掘調査に至る動機

上高山遺跡Ⅱは、小諸市境にほどない佐久市の北部に位置する。標高730mを測る。東に隣接する上高山遺跡Ⅰは、国道141号バイパス工事に先立ち記録保存調査されており、古墳時代と平安時代の竪穴住居址２棟などが検出されている。また、付近を上信越自動車道が通過し、近接してインターチェンジができるため、アクセス道路、流通業務団地、区画整理などの大規模開発が連続し、遺跡の記録保存調査が相次いで行われている。

このたび、神津鶴雄氏が貸し工場を建設することになり、平成３年７月24日に事前の試掘調査を実施した。その結果、調査区の北側に集中して竪穴住居址１棟や掘立柱建物址などの遺構が確認された。

保護協議の結果、削平される開発対象地北側部分約1,000m²について記録保存のため発掘調査を実施することとなった。

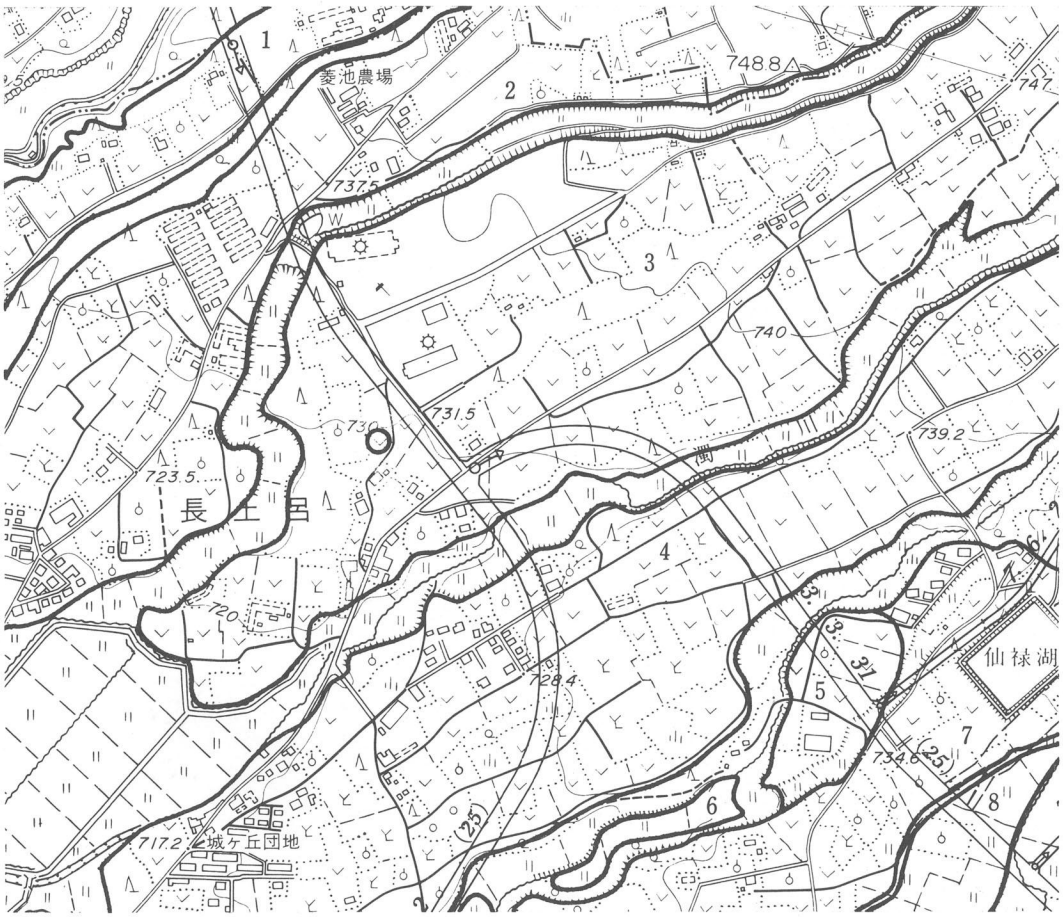
調査は、神津鶴雄氏からの委託を受けた佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財センターが実施するはこびとなった。



第１図　上高山遺跡Ⅱの位置（1：50,000国土地理院地形図による）

第II章　遺跡の位置と周辺遺跡

第１節　上高山遺跡IIと周辺遺跡の分布



第２図　上高山遺跡II周辺遺跡分布図

第１表　周辺遺跡一覧表

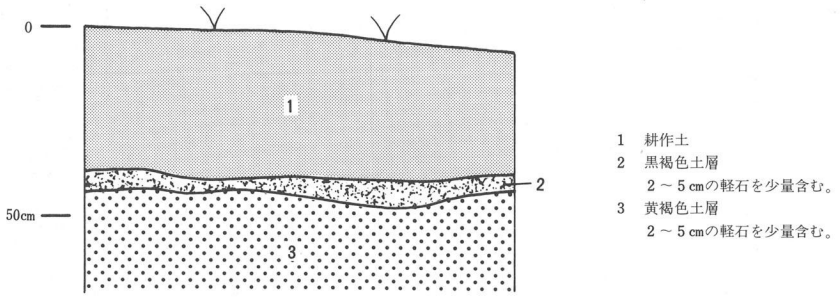
No.	遺　跡　名	所在地	立地	時代						備　　考
				縄	弥	古	奈	平	中	
1	近津遺跡群	長土呂	台地		○	○	○	○	○	北近津遺跡調査
2	周防畑遺跡群	長土呂	台地	○	○	○	○	○	○	周防畑Ａ遺跡、周防畑Ｂ遺跡、若宮遺跡調査
3	芝宮遺跡群	長土呂	台地	○	○	○	○	○	○	芝宮遺跡群第１次～３次調査
4	長土呂遺跡群	長土呂	台地	○	○	○	○	○	○	聖原遺跡、上聖端遺跡、下聖端遺跡、上大林遺跡調査
5	曽根新城跡	長土呂	台地					○	○	
6	新城遺跡	岩村田	低地		○	○	○	○		
7	枇杷坂遺跡群	岩村田	台地	○	○	○	○	○		上直路遺跡調査

第Ⅲ章　発掘調査の概要

第１節　基本層序

第３図の層序模式図に示したように、１層は黒褐色の耕作土で層厚は約40cmを測る。２層は黒褐色土で２～５cm大の軽石を含み、調査区の西側に顕著に認められた。３層は、黄褐色のローム層で、遺構の確認はこの層の上面でなされた。

調査区を北東から斜めに覆う黒色土は、旧小河川の上部に堆積したもので、低地状の地形となっている。この古い小河川の流路は、浅間第１軽石流に覆われた一帯に顕著な「田切り地形」上に形成されたもので、岩村田や長土呂一帯の発掘調査の際によくみられるが、数時期に渡って形成されたことは遺構との重複関係で明らかである。本遺跡のＨ１号住居址および掘立柱建物址の一部は、この層の上部に構築されている。したがって本遺跡でみられた黒色帯は、奈良時代以前に形成されたといえる。



第３図　上高山遺跡Ⅱ基本層序模式図

第２節　調査された遺構

検出された遺構は、奈良時代の竪穴住居址１棟・掘立柱建物址１棟、奈良時代以後の掘立柱建物址４棟、江戸時代末の土坑２基・井戸址１基、時期不明の土坑１基である。

遺物は、土師器甕・坏・器台、須恵器甕・坏、石製品、紡錘車、石鏃、陶磁器、瓦などが出土した。

第Ⅳ章　調査の記録

第１節　遺構と遺物

１）　Ｈ１号住居址（第４～９図，写真図版二・四）

調査区の北側中央から検出された。Ｆ３号掘立柱建物址に床面の一部を破壊されている。住居址南部覆土内には、瓦・陶磁器・鉄器が投げ捨てられたとみられる江戸時代末の土坑が確認された。土坑底面は、住居址床面に達していない。南北6.4m東西6.4mの隅丸正方形を呈する。壁残存高は、28.5～48cm、南北軸方向Ｎ―25°―Ｗを測る。床面は南壁直下を除き堅緻であった。床面下の掘り方は、四方の壁寄りが30cmと深く、中央付近は浅い。貼り床は基本層序第３層にみられる明褐色のロームを主として用いている。主柱穴のＰ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４が方形に配され、深さはそれぞれ44・45・48・62cmである。Ｐ７・Ｐ10は東壁内に、これに対応した位置の西壁にはＰ３・Ｐ４があり、住居の上屋に関係する柱穴であるうか。深さは41～52cmを測る深いものである。

南壁中央直下には、深さ25cmの一対のピットが検出された。入り口に関した施設であろうか。

住居西南端には径50cmのピットがみられ、底面から10cm浮いた状態で黒色多孔質安山岩が出土している。この礫の上端と床面とはほぼ同一の高さとなっている。

壁溝が南壁中央付近を除く壁下に認められた。幅12～20cm深さ３～12cmを測る。

覆土はほぼ黒色土一層であり、一部壁際には壁崩れと考えられるローム粒子を含む暗黒褐色土が認められた。北壁寄りにはカマド構築土等の粘土や焼土が含まれている。

カマドは、北壁中央に設置されていた。新旧のカマドが認められ、旧カマドの左側の袖部と新カマドの右袖の位置は一致している。新カマドも使用時の姿を留めておらず僅かに面どり軽石を芯にした袖部の一部と火床が残存していた。焼土の状況から煙道部・火床ともいったん掘りくぼめた後、褐色の粘土と褐色土を埋めて深さや立ち上がり方を調整している。火床の掘り方が貼り床を切っていることから、床の整地後にカマドが構築されたといえる。

出土遺物には、須恵器の蓋・坏・長頸壺・甕、土師器の坏・甕・器台、馬具、石器等がある。図示不可能なものでは土師器の甕が多い。胴部片だけで断定はできないが外面縦方向・内面横方向の粗いハケメ状の調整がなされた在地の整形とは異なった甕もみる。

本住居址はくの字状口縁の土師器甕、底部手持ちヘラケズリの須恵器坏がみられ、奈良時代前半に位置づけられよう。なお、第６図５の器台の類例はあまりみかけないものである。

第８図は、滑石製の紡錘車でカマド西側の床面より出土した。径4.1cm・厚さ1.8cm・孔径0.7cm

を測る。第７図は鉄製馬具轡の鏡板で、断面長方形の厚さ0.5cmの角棒で心葉形状を呈し、一方に咬具部を造り出している。

第１表　上高山遺跡Ⅱ（Ｈ１号住居址）出土土器観察表

挿図番号	種別	器形	法量	残存	成　形・調　整	胎土・焼成・色調	備　　考
6-1	須恵器	蓋	(15.8) — 〈2.3〉	口縁½	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付（つまみ欠損）	胎土：白色粒子・黒色粒子を含む 焼成：良好 色調：明オリーブ灰色	
6-2	須恵器	坏	— 6.9 〈1.6〉	底部完形	ロクロナデ→底部切り離し後手持ちヘラケズリ	胎土：白色粒子・黒色粒子を含む 焼成：良好 色調：灰白色	
6-3	須恵器	長頸壺	(8.7) — 〈6.4〉	口縁½	ロクロナデ	胎土：黒色粒子を含む 焼成：良好 色調：内）灰白色　外）灰色	内外面に自然釉付着
6-4	土師器	甕	23.8 — 〈18.9〉	口縁～胴上半完形	口縁ヨコナデ・外面胴部ヘラケズリ・内面胴部ヘラナデ	胎土：砂粒を含む 焼成：良好 色調：にぶい橙色	
6-5	土師器	器　台	(28.5) (22.0) 3.2	底部⅕	ロクロナデ→内面ヘラミガキ→高台貼付	胎土：砂粒を含む 焼成：良好 色調：橙色	

2）　Ｆ１号掘立柱建物址（第10図、写真図版二の２）

調査区西側中央から検出された。遺構の一部は調査区外の西側に続く。建物の平面形態は桁行２間・梁間２間以上で、柱の配置は側柱式である。長軸（桁行）の方位はＮ—25°—Ｗを指す。平面規模は桁行3.2m・梁間2.2m以上を測り、柱間寸法は桁行2.2m・梁間1.9mで、各柱間のばらつきは小さい。各柱穴の平面形態は円形を基調とし直径60～70cm・深さ43～62cmを測り、柱痕部分が一段低い。出土遺物は土師器坏・甕の小片が２点のみで時期は不明である。

3）　Ｆ２号掘立柱建物址（第12図、写真図版二の３）

調査区の北西隅から検出された。遺構の一部は調査区外の西側に続く。Ｄ２号土坑に一部を破壊され、Ｆ５号掘立柱建物址の一部を破壊している。建物の平面形態は桁行２間・梁間２間で柱の配置は側柱式である。長軸（桁行）の方位はＮ—23°—Ｗを指す。平面規模は桁行3.5m・梁間3.3m、柱間寸法は桁行1.7m・梁間1.7m前後でばらつきは小さい。各柱穴の平面形態は円形を基調とし直径40～70cm・深さ25～41cmを測る。出土遺物は土師器甕、須恵器坏の小片のみで時期は不明である。

4）　Ｆ３号掘立柱建物址（第13図、写真図版三の１）

調査区の北側の中央から検出された。Ｈ１号住居址の南半部と重複しＨ１号住居址の一部を破壊する。建物の平面形態は桁行３間・梁間２間で柱の配置は総柱式である。長軸（桁行）の方位はＮ—73°—Ｅを指す。平面規模は桁行6.2m・梁間4.2m、柱間寸法桁行2.1m・梁間1.9m前後で

ばらつきは小さい。各柱穴の平面形態は円形を基調とし直径30～60㎝・深さ17～38㎝を測る。出土遺物はなく時期不明である。

5）　Ｆ４号掘立柱建物址（第14図、写真図版三の２）

調査区の北東から検出された。組み合わせが明確でないピット群と重複し一部の柱穴が破壊されている。建物の平面形態は桁行３間・梁行３間で柱の配置は総柱式である。長軸（桁行）の方位はＮ―19°―Ｗを指す。平面規模は桁行6.3m・梁間6.2m、柱間寸法桁行2.2m・梁間2.2m前後でばらつきは小さい。各柱穴の平面形態は円形を基調とし直径30～40㎝前後・深さ24～56㎝を測る。出土遺物は土師器甕の小片で時期不明である。

6）　Ｆ５号掘立柱建物址（第15図、写真図版三の３）

調査区の北西から検出されたピット群・Ｆ２号掘立柱建物址と重複し一部の柱穴が破壊されている。建物の多くの部分が調査区域外にあるため、平面形態は明確ではない。Ｐ１～Ｐ６のありかたは、庇付の建物址の可能性がたかい。検出部分の平面規模は、桁行11.2m、梁間４ｍと大形である。さらに、南側のピット群Ｐ５・Ｐ７・Ｐ11も本址に関係するピットの可能性もある。柱穴は円形を基調とし、直径30～50㎝、深さ10～56㎝を測る。時期は不明である。

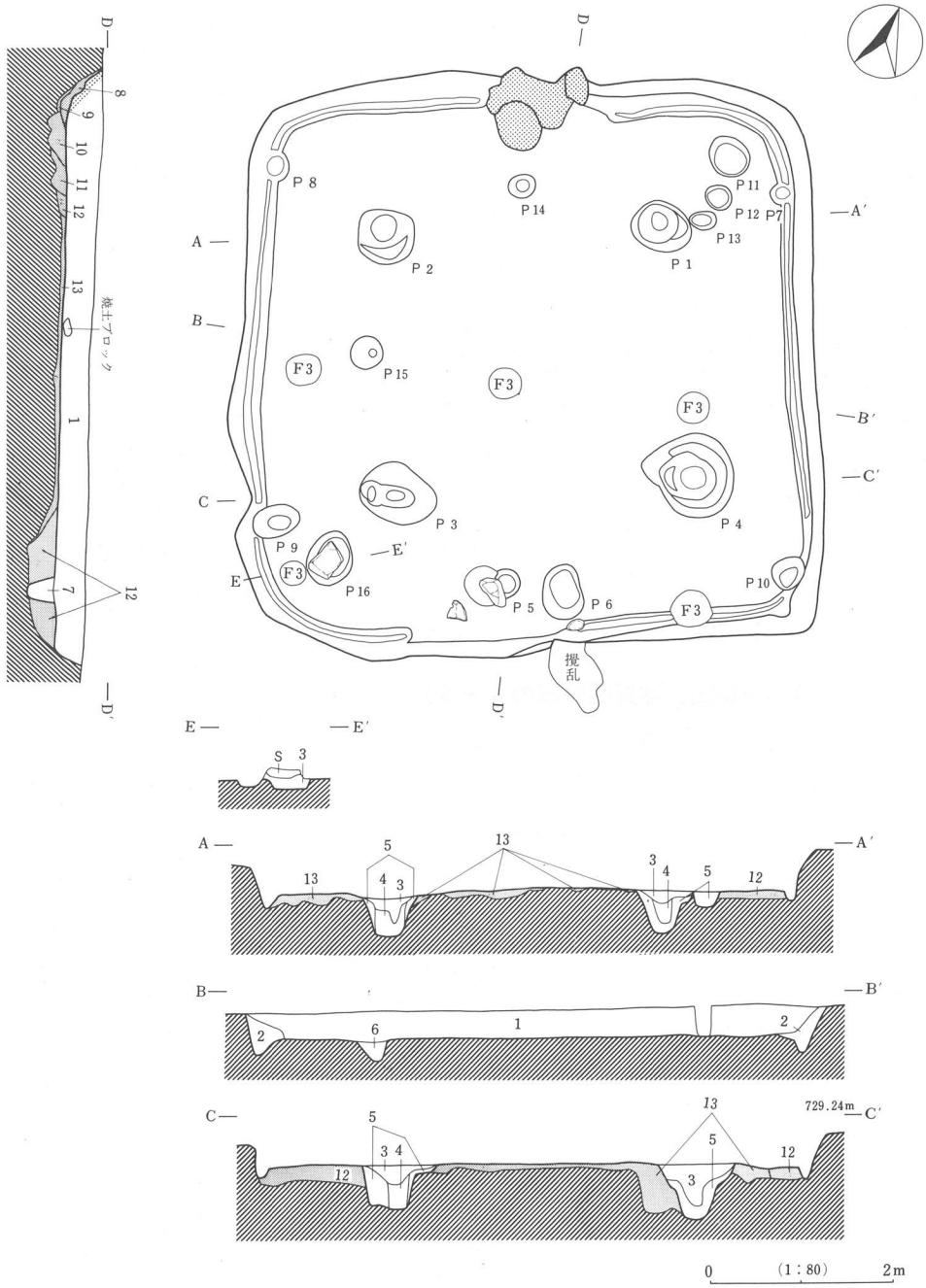
7）　土坑（第16～18図、写真図版三の４・５）

Ｄ１号土坑は長軸1.9m短軸1.2m深さ35㎝内外の長方形、Ｄ２号土坑は径60㎝の円形を呈するとみられる。Ｄ３号土坑は長軸３ｍ短軸２ｍの長方形で瓦・陶磁器・鉄器が多く出土した。Ｄ１～３号土坑・井戸址は、少なくても明治時代の始めか江戸時代末まであったという地主宅の関連遺構であろう。

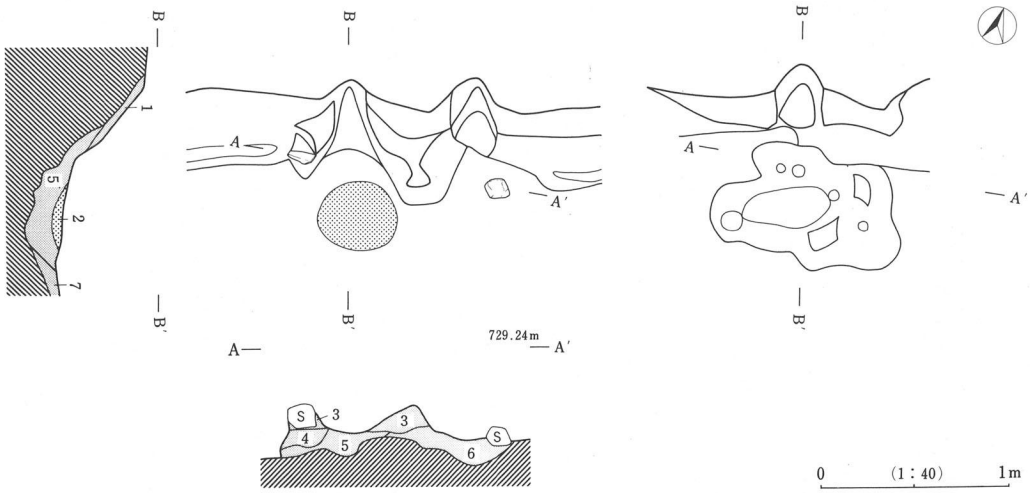
第２表　上高山遺跡Ⅱ出土石器観察表

挿図番号	出土遺構	器　種	石　質	法　量（㎝）			備　考
				長　さ	幅	厚　さ	
9－1	H1	凹　石	軽　石	17.5	13.2	7.7	
9－2	H1	磨　石	安山岩	〈5.2〉	〈11.2〉	〈3.3〉	Ｐ４内出土。一部欠損。
11－1	F1	礫　器	玄武岩	11.3	9.3	3.4	
18－1	D3	砥　石	流紋岩	〈10.6〉	3.0	2.3	一部欠損。
19－1	表採	打製石鏃	チャート	1.6	1.3	0.3	

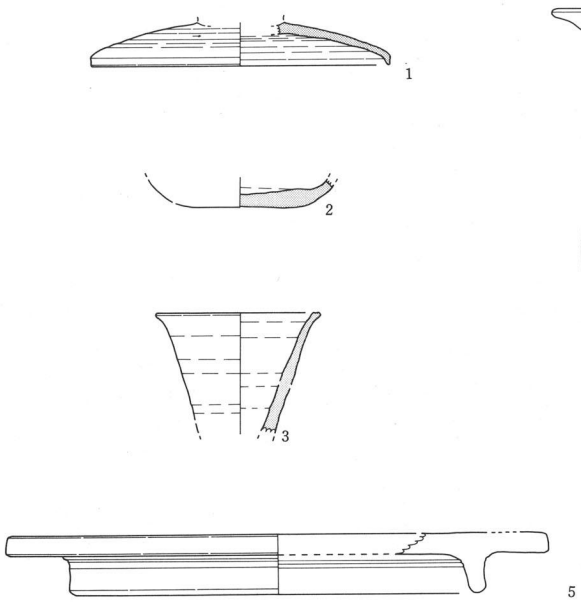
第２節　遺構と遺物実測図



第４図　Ｈ１号住居址実測図

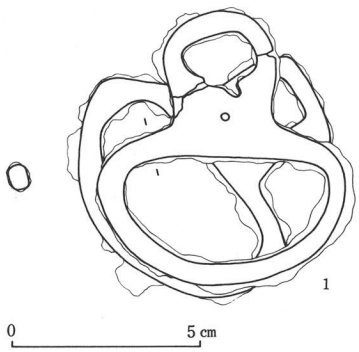


第５図　Ｈ１号住居址カマド実測図

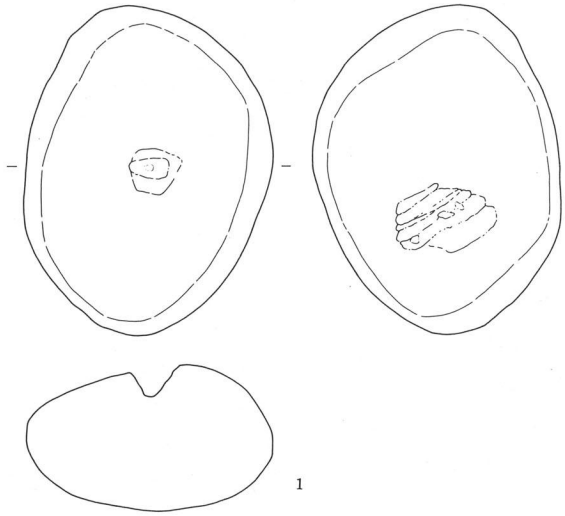


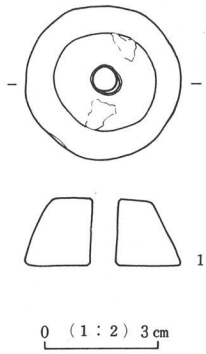
第６図　Ｈ１号住居址出土土器実測図

0 (1:4) 10cm

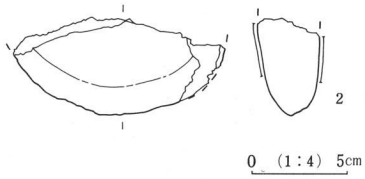


第７図　Ｈ１号住居址出土鉄器実測図

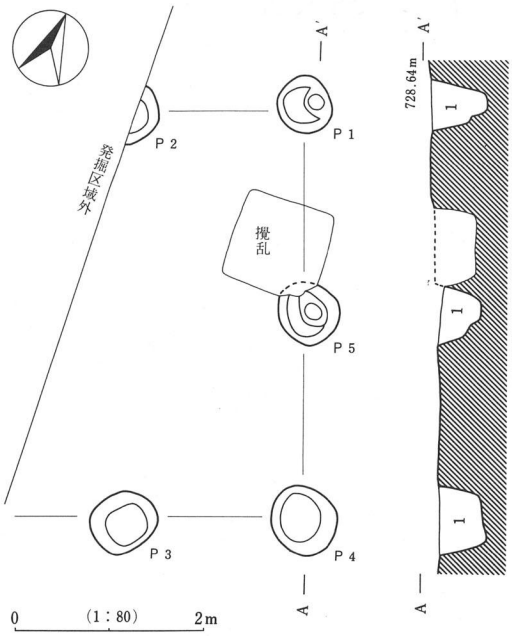




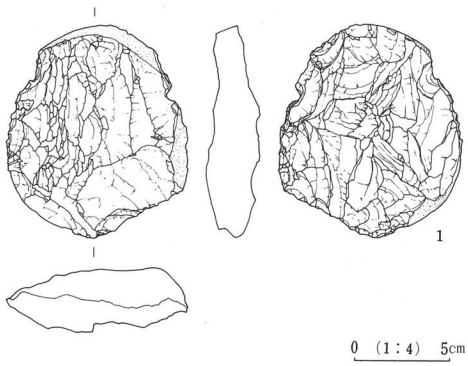
第８図　Ｈ１号住居址出土
紡錘車実測図



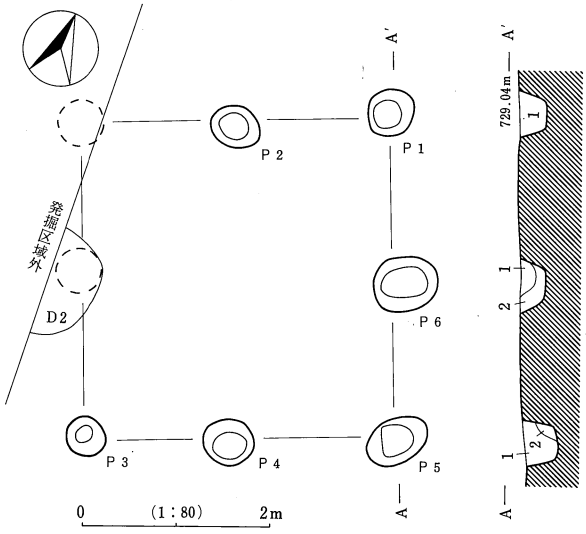
第９図　Ｈ１号住居址出土石器実測図



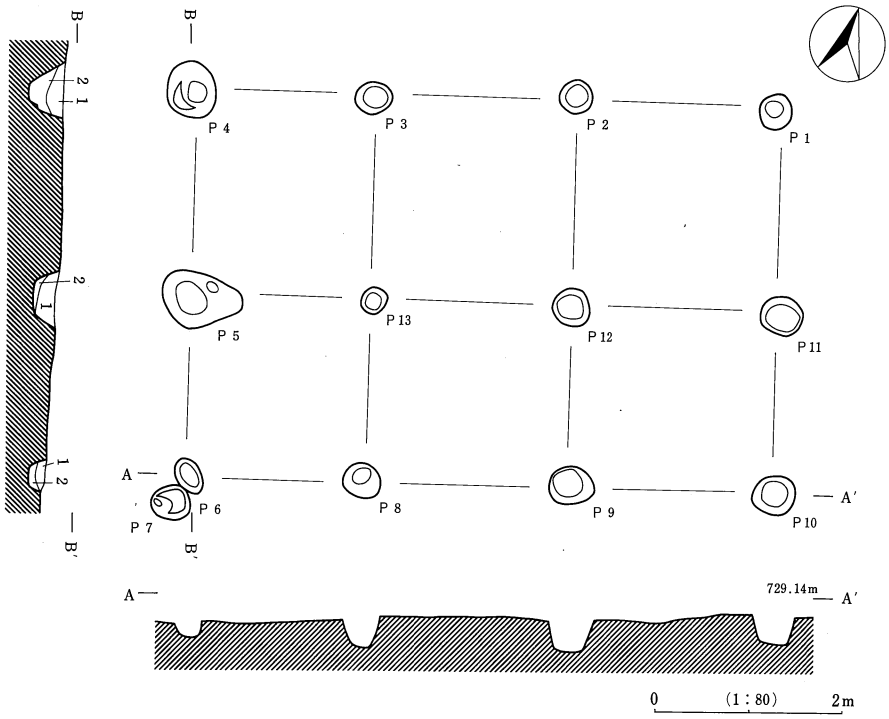
第10図　Ｆ１号掘立柱建物址実測図



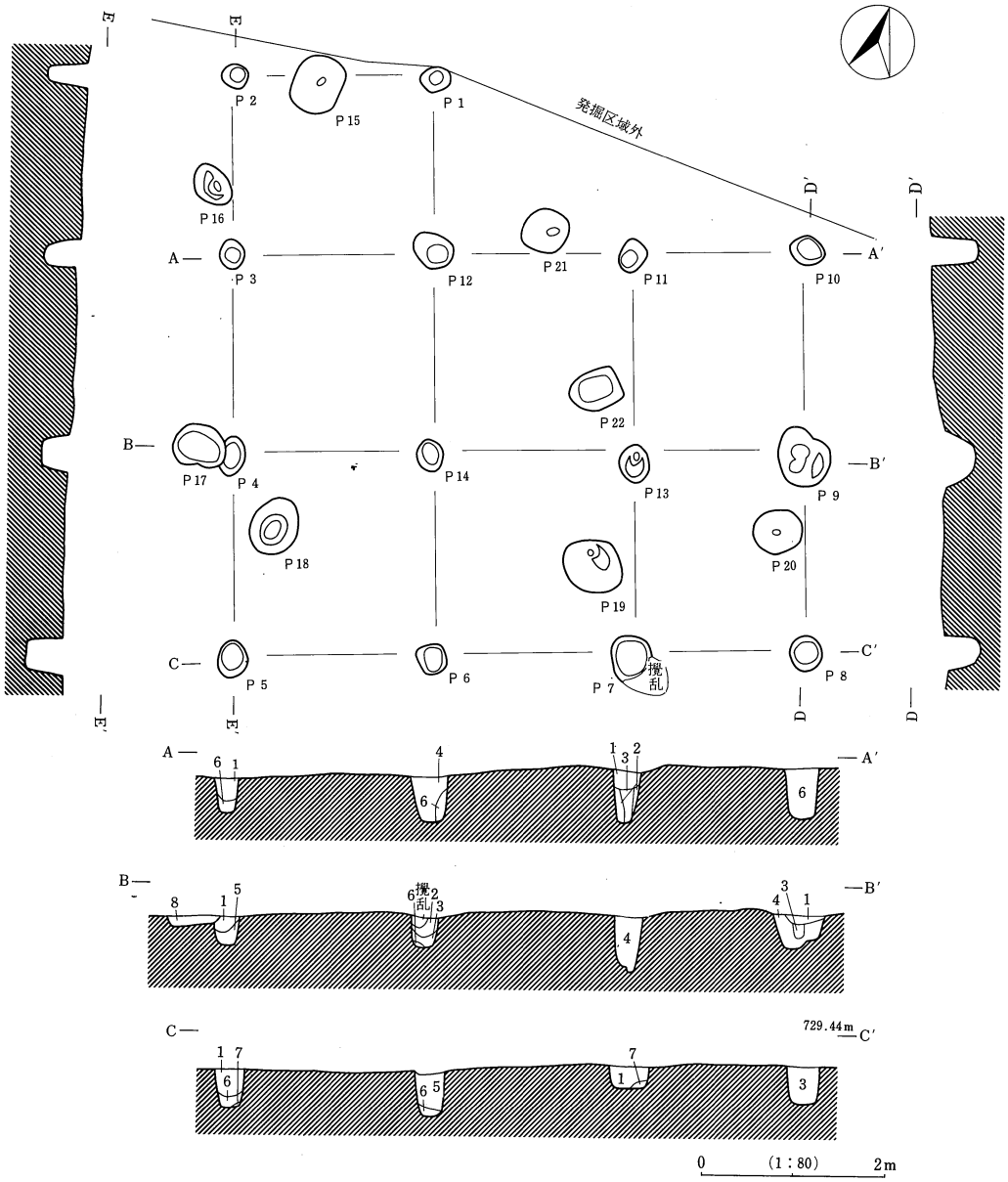
第11図　Ｆ１号掘立柱建物址出土石器実測図



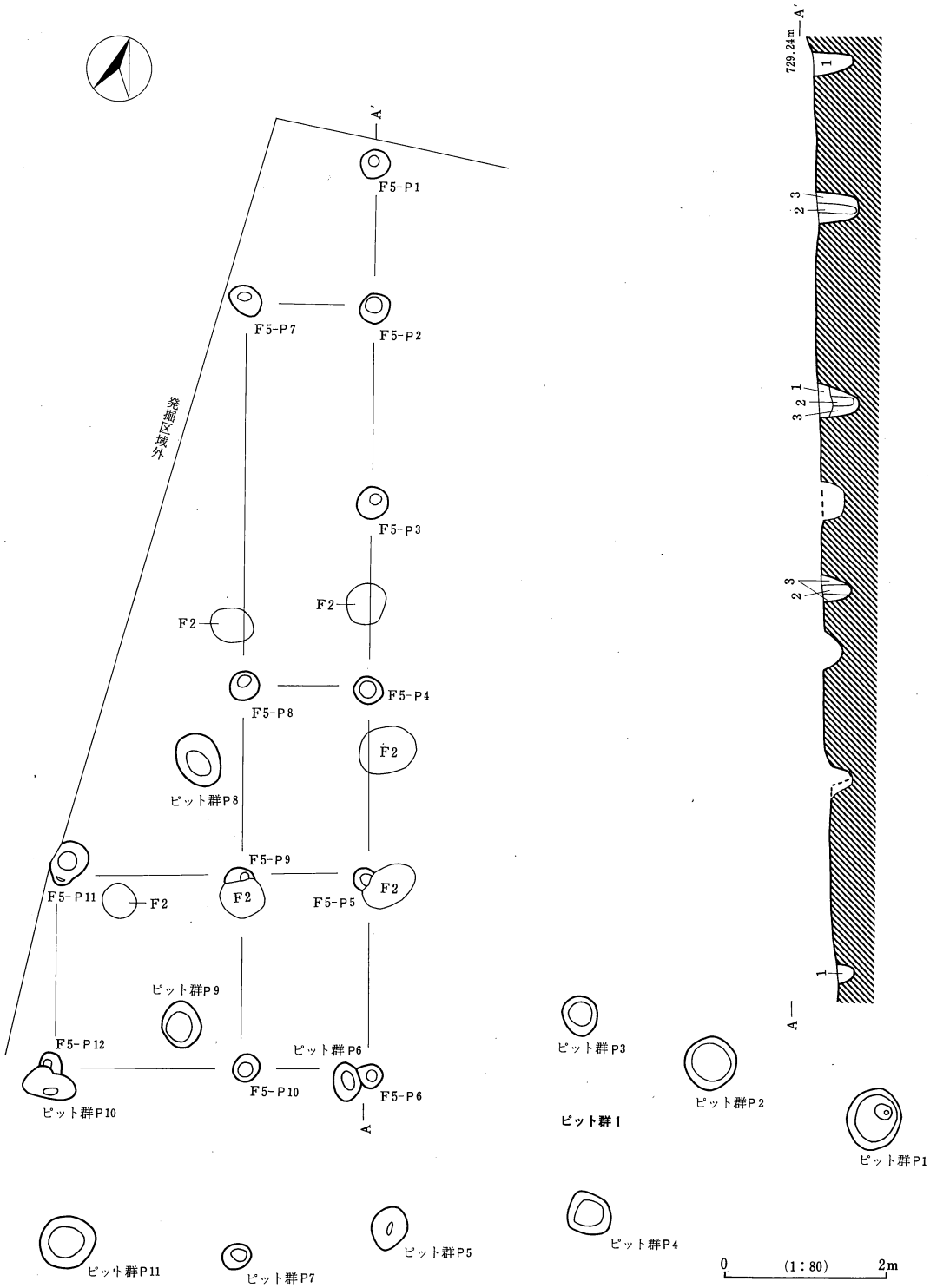
第12図　Ｆ２号掘立柱建物址実測図



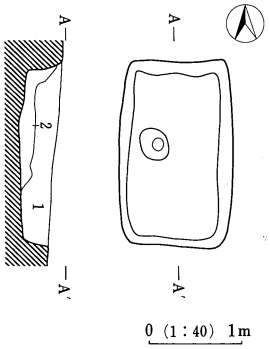
第13図　Ｆ３号掘立柱建物址実測図



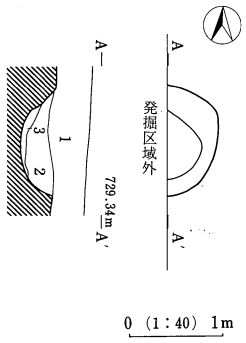
第14図　F 4 号掘立柱建物址実測図



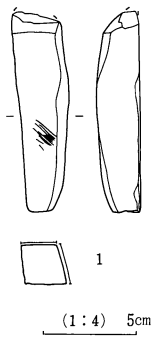
第15図　F 5 号掘立柱建物址実測図



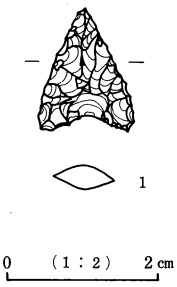
第16図　Ｄ１号土坑実測図



第17図　Ｄ２号土坑実測図



第18図　Ｄ３号土坑出土石器実測図



第19図　表採遺物実測図

土　層　説　明

Ｈ１号住居址土層説明

1層	黒色土	パミス（1cm大）を少量、ローム粒子を微量含む。(北側にカマドの崩落土・粘土・焼土の混じった所あり)
2層	暗褐色土	ローム粒子を多量含む。
3層	黒褐色土	パミス（0.1cm大）を微量含む。
4層	褐色土	ローム粒子を少量含む。
5層	褐色土	ロームが主。パミス（0.1cm大）を微量含む。
6層	褐色土	
7層	黒褐色土	
8層	褐色土	粘土ブロックを多量含む。(旧カマド)
9層	黒色土	ローム粒子を微量含む。(旧カマド)
10層	暗赤褐色土	粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子を多量含む。(旧カマド)
11層	黒褐色土	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含む。
12層	暗褐色土	明褐色土をブロック状に含む。
13層	明褐色土	黒褐色土をブロック状に含む。

Ｈ１号住居址カマド土層説明

1層	褐色土	粘土
2層	明赤褐色土	焼土
3層	にぶい赤褐色土	炭を少量、パミス（0.1cm大）を微量含む。粘土層。
4層	黒色土	ローム粒子を少量、パミスを微量含む。
5層	褐色土	粘土粒子・炭化粒子・ローム粒子を少量含む。
6層	黒褐色土	ローム粒子を少量含む。
7層	黒褐色土	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含む。

Ｆ１号掘立柱建物址土層説明

1層	黒色土	パミス（0.5cm以下）を微量含む。

Ｆ２号掘立柱建物址土層説明

1層	黒褐色土	ローム粒子を微量含む。
2層	暗褐色土	ローム粒子を多量含む。

Ｆ３号掘立柱建物址土層説明

1層	黒褐色土	ローム粒子を微量含む。
2層	黒褐色土	堅くしまる。ローム粒子を多量、パミスを微量含む。
3層	暗褐色土	ロームが主。

Ｆ４号掘立柱建物址土層説明

1層	黒褐色土	ローム粒子を含む。
2層	褐色土	ローム粒子・炭を微量含む。
3層	黒色土	
4層	黒褐色土	褐色土を含む。
5層	暗褐色土	ローム粒子を含む。
6層	褐色土	ローム粒子を多量含む。
7層	黒色土	堅くしまる。
8層	黒褐色土	

Ｆ５号掘立柱建物址土層説明

1層	黒褐色土	
1'層	暗褐色土	
2層	黒褐色土	柱痕
2'層	黒褐色土	柱痕
3層	暗褐色土	埋め土
3'層	褐色土	埋め土

Ｄ１号土坑土層説明

1層	黒褐色土	黒色土を少量含む。
2層	黒褐色土	礫（0.5cm大）を少量含む。

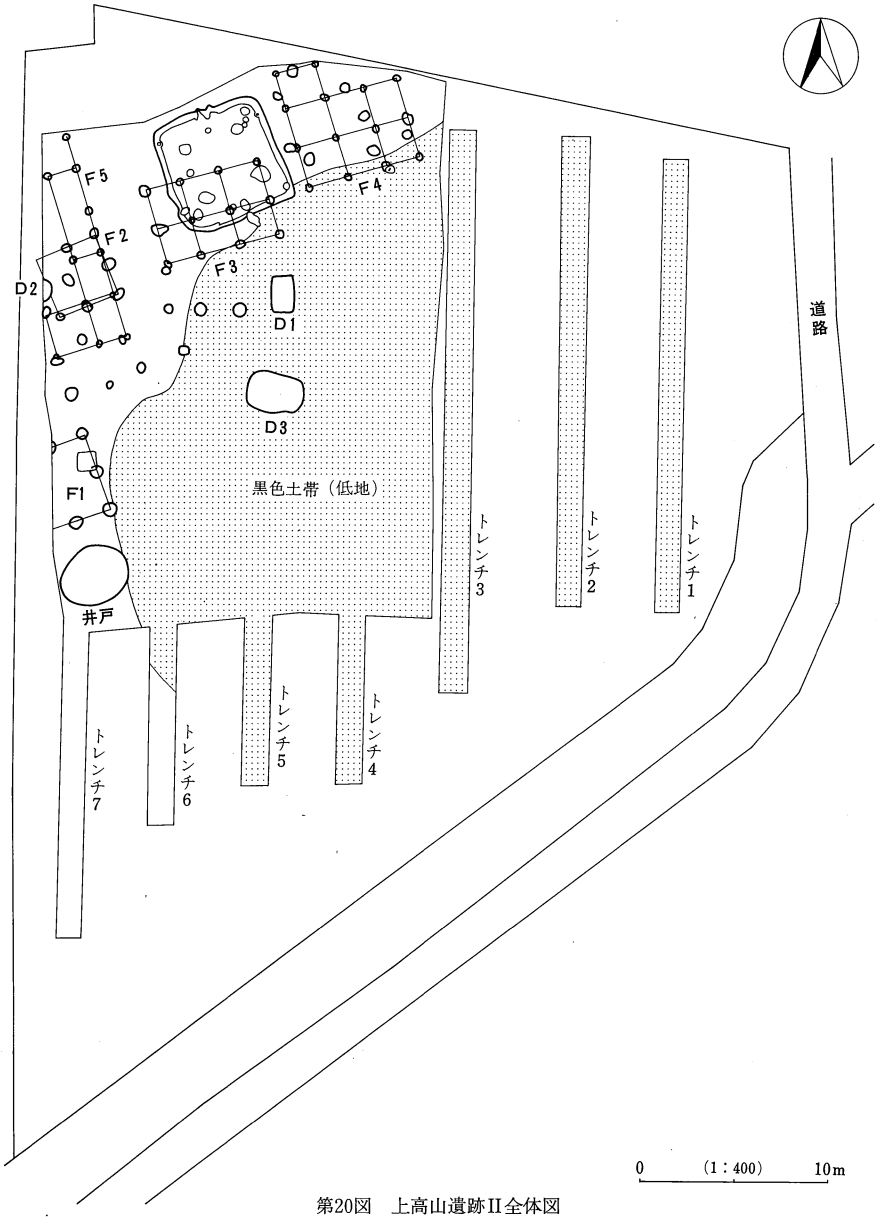
Ｄ２号土坑土層説明

1層	耕作土	
2層	暗褐色土	パミス（1cm大）・ローム粒子を多量含む。
3層	黒褐色土	ローム粒子を少量、パミス（1cm大）を微量含む。

第Ⅴ章　調査の成果

本遺跡は芝宮遺跡群が展開する「田切り」台地が、いったんその幅を狭めようとする地点に位置している。隣接した芝宮遺跡の第１次～第３次調査では、縄文時代の土坑、中世の堅穴状遺構が検出されているが、古墳～平安時代の住居址は発見されていない。この調査地区に続いて調査された上高山遺跡Ｉでは、古墳時代および平安時代の住居址が検出されている。これらの調査・

および今回の調査区の西側に遺構が集中して存在するという調査の結果から、上高山遺跡Ｉで検出された古墳時代住居址・平安時代住居址、本遺跡の奈良時代の住居址は、いずれも、該期の集落の東端に位置しているものと考えられ、集落の中心は西側の台地縁辺部にあると思われる。



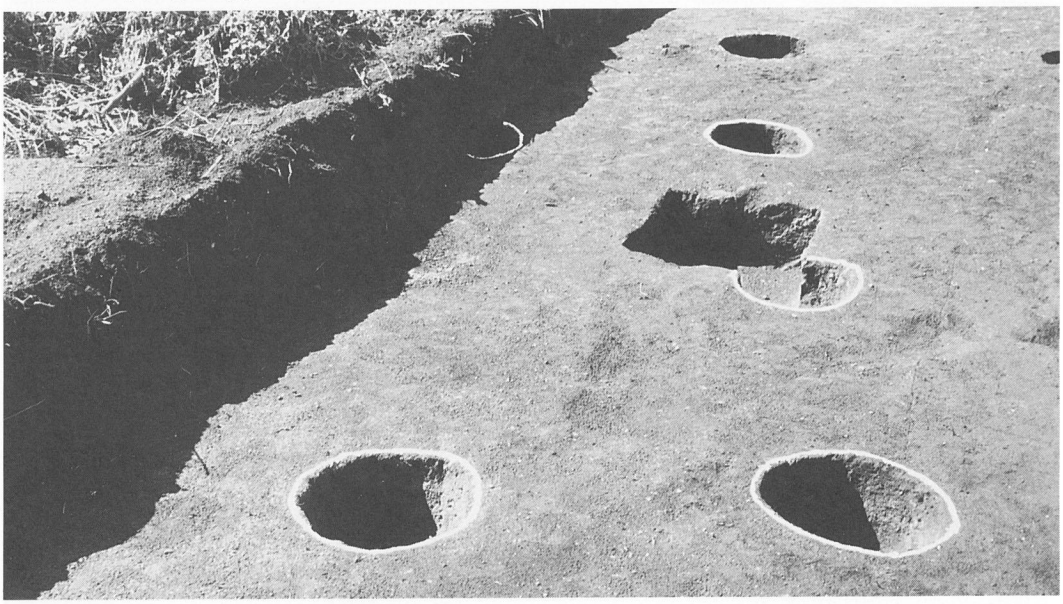
第20図　上高山遺跡Ⅱ全体図

1．上高山遺跡Ⅱ遺構全景（南から）

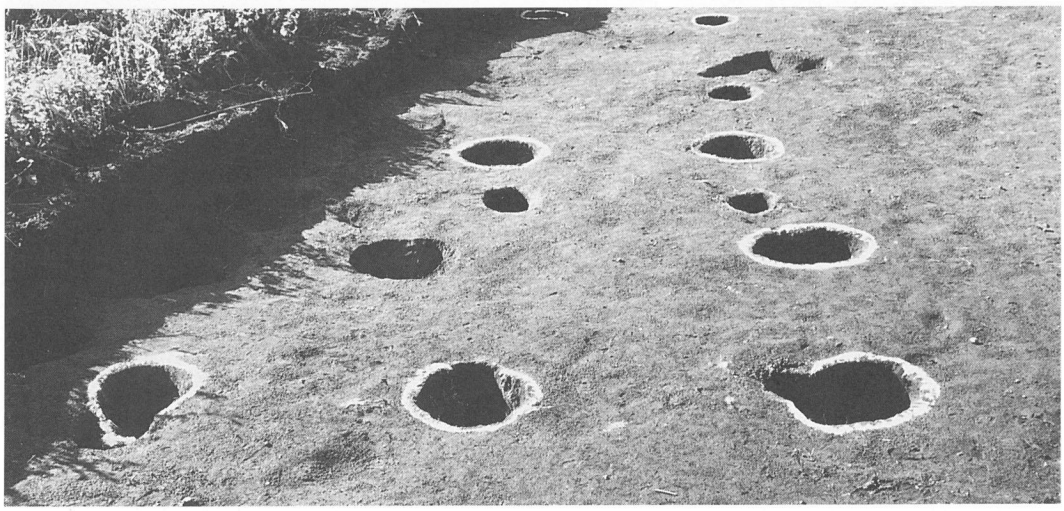
2．上高山遺跡Ⅱ遺構全景（東から）

図版 二

1．Ｈ１号住居址（南から）



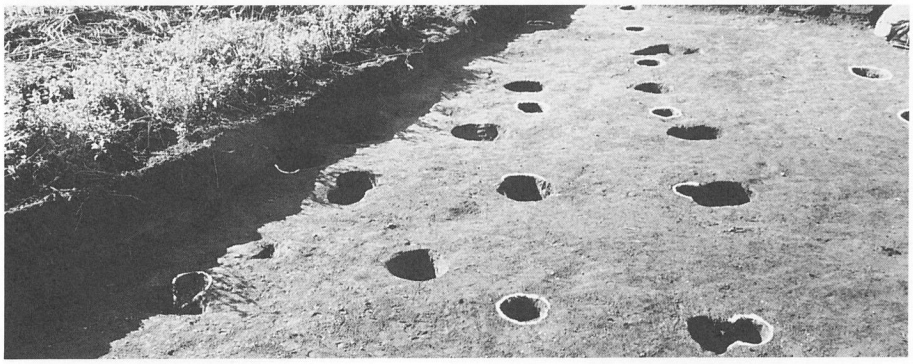
2．Ｆ１号掘立柱建物址（南から）



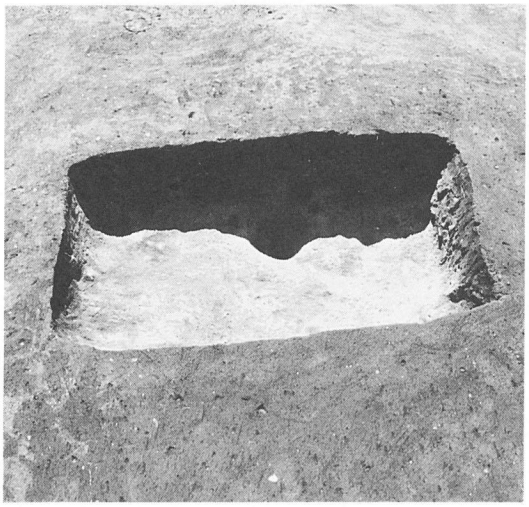
3．Ｆ２号掘立柱建物址（南から）

1．Ｆ３号掘立柱建物址

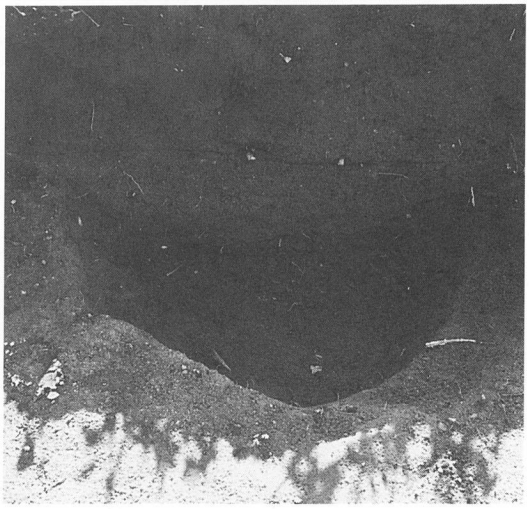
2．Ｆ４号掘立柱建物址



3．Ｆ５号掘立柱建物址



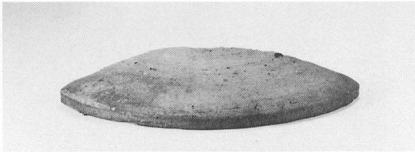
4．Ｄ１号土坑



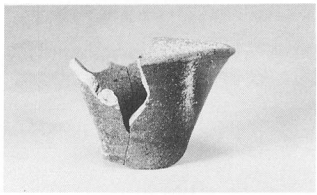
5．Ｄ２号土坑

図版　四

1．Ｈ１号住居址出土土器

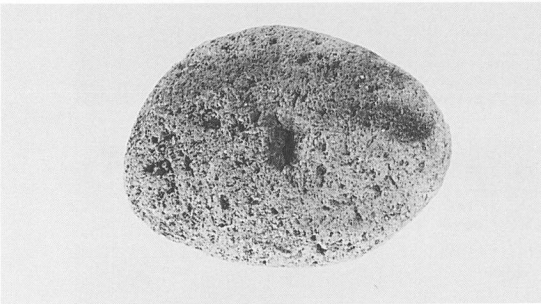


2．Ｈ１号住居址出土土器

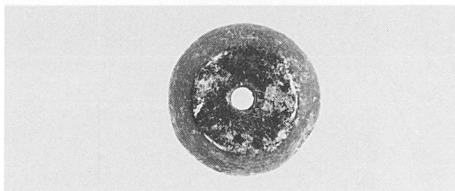


3．Ｈ１号住居址出土土器

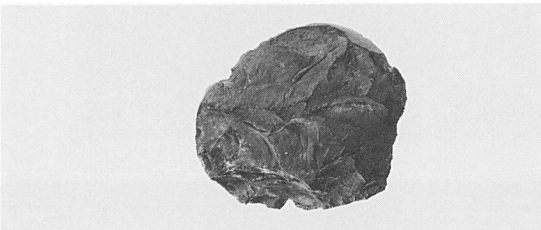
4．Ｈ１号住居址出土土器



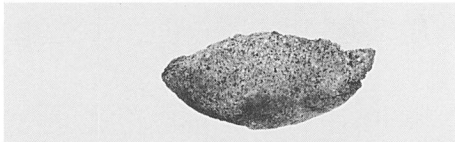
5．Ｈ１号住居址出土石器



7．Ｈ１号住居址出土紡錘車

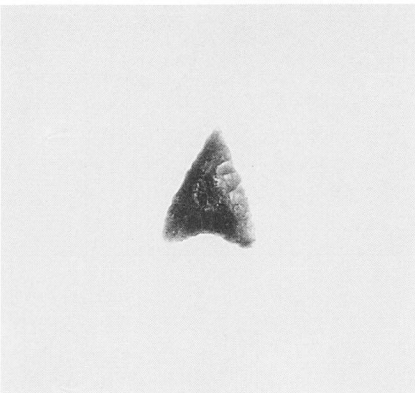


6．Ｆ１号掘立柱建物址出土石器

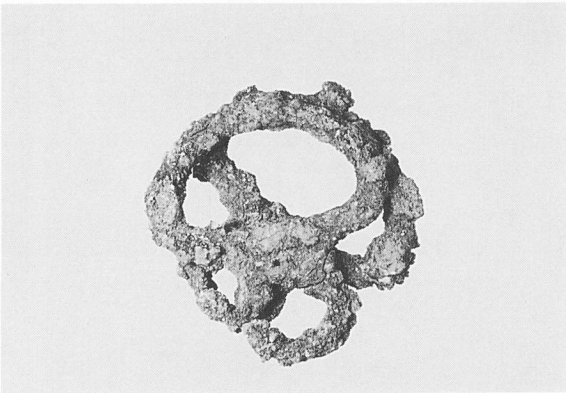


8．Ｈ１号住居址出土石器

9．Ｄ３号土坑出土石器



10．表採石鏃



11．Ｈ１号居址出土馬具

長野県佐久市

佐久市埋蔵文化財調査報告書第13集

上高山遺跡II発掘調査報告書

1992年3月

編集者　佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財調査センター

発行者　佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財調査センター

印刷所　信毎書籍印刷株式会社